

# 日本海沿岸漁場造成効果調査（赤石地区） （要 約）

大澤幸樹<sup>1</sup>

## 目 的

赤石地区漁場内の着定基質に生育するホンダワラ類等の海藻等及び水産生物、ハタハタの産卵状況を調査する。

## 材料と方法

### 1. ホンダワラ類の生育状況調査

平成 25 年 6 月、7 月、12 月、平成 26 年 2 月に赤石地区漁場内の着定基質（海洋土木社製  $\pi$  ブロック 8 t 型）において、ホンダワラ類等の生育海藻と生息する底生動物を枠取り採取するとともに、これら生物と蛸集魚類を目視調査した。また、比較のため、赤石地区漁場近傍の天然のホンダワラ類藻場において、同様の内容で調査を行った。

### 2. ハタハタの産卵状況調査

平成 26 年 2 月に赤石地区漁場内に設置された着定基質に生育するホンダワラ類等海藻に産み付けられたハタハタ卵塊について、海藻ごと枠取り採取するとともに付着個数をホンダワラ類の種別に目視調査した。また、比較のため、赤石地区漁場周辺にある天然ホンダワラ類藻場において、同様の内容で調査を行った。

### 3. ウスメバルの生息状況調査

平成 25 年 7 月、12 月、平成 26 年 2 月に赤石地区漁場内の着定基質周辺に生息するウスメバルについて目視調査した。また、比較のため、赤石地区漁場周辺にある天然ホンダワラ類藻場において、同様の内容で調査を行った。

## 結 果

### 1. ホンダワラ類の生育状況調査

広域漁場内において、6 月にホンダワラ類 4 種、その他海藻 11 種、7 月にホンダワラ類 5 種、その他海藻 13 種、12 月にホンダワラ類 5 種、その他海藻 4 種、翌 2 月にはホンダワラ類 6 種、その他海藻 18 種が観察された。また、天然藻場では、6 月にホンダワラ類 4 種、その他海藻 4 種、7 月にホンダワラ類 4 種、その他海藻 7 種、12 月にホンダワラ類 3 種、その他海藻 2 種、翌 2 月にホンダワラ類 5 種、その他海藻 5 種が観察された。

### 2. ハタハタの産卵状況調査

枠取り調査及び目視観察調査において、着定基質にはハタハタの卵塊が確認されなかった。天然藻場でマメタワラとヨレモクのホンダワラ類 2 種にハタハタ卵塊が付着しているのが確認された。付着していた卵塊の状態は全て孵化済卵塊であった。また、付着が確認されたホンダワラ類 1 藻体当りの卵塊数は、マメタワラでは 1 個から 4 個の範囲で平均 2.25 個/株、ヨレモクでは 1 個から 3 個の範囲で平均 1.3 個/株であった。卵塊の付着率の高いホンダワラ類は天然藻場でマメタワラであった。

### 3. ウスメバルの生息状況調査

ウスメバル稚魚は、着定基質周辺及び天然ホンダワラ類藻場ともに確認されなかった。

## 考 察

ホンダワラ類は増殖場において各調査月で概ね生育が確認されたが、今後も経過を観察する必要がある

---

<sup>1</sup> 青森県農林水産部総合販売戦略課

と思われた。

今回の調査ではハタハタの産卵は確認することができなかった。増殖場周辺は平坦な岩盤場であり、そこへ高さがある着定基質を設置したために波浪や潮流の影響を受けやすくなっていたと考えられる。そのため、静穏域に好んで産卵するハタハタにとっては、増殖場周辺の環境は産卵場としては適さなかった可能性がある。しかし、第二鱒ヶ沢地区の増殖場では漁獲量や群れの雌雄比によって年度毎に産卵状況が異なっているため、赤石地区においても今後の漁獲量や群れの状況と産卵状況の経過を観察する必要があると思われた。